

記 令 土 担 電 メ	者 和 木 當 者 一 者	發 8 部 者 話 ル:	表 年 都 、 022-211-3144 tosikansk@pref.miyagi.lg.jp	資 2 市 環 今 4 日 境 野
----------------------------	---------------------------------	-----------------------------	-----------------------------------------------------------------	-------------------------------------------

**～全国初、東北4県15事業者での共同発注が実現～**  
**「宮城県」、「岩手県」、「山形県」及び「福島県」の市町村等水道事業者による**  
**調査業務の共同発注に関する基本合意について**

**【構成メンバー】** 宮城県：栗原市、美里町、宮城県

岩手県：遠野市、釜石市、二戸市、零石町、岩手町、金ヶ崎町、一戸町、岩手県

山形県：天童市、白鷹町、山形県

福島県：いわき市、白河市、田村市、双葉地方水道企業団、福島県

市町村等が住民に水を供給している水道事業は、今後人口減少に伴う水需要の低下が著しく、大幅な収入の減少が見込まれており、安定的な事業運営を行うためには、「コスト削減」と「業務効率化」を強く進めていかなければなりません。

また、水道管等の劣化を起因とする漏水陥没事故が社会課題とされている中、なるべく早期に効率的な漏水調査を行い、事故を未然に防ぐ努力も求められております。

そのような中、「宮城県」及び「福島県」の市町村等水道事業者では、令和6年度以降、これまで個別に実施していた水道の漏水調査を共同で発注することとし、また衛星を活用した効率的な調査手法を実施してまいりました。

この取組がコスト削減や業務時間の短縮などに効果を発揮したことから、近隣県にも更なる参加の呼びかけを行い、今回、「宮城県」「岩手県」「山形県」「福島県」の4県15事業者が連携した取組が実現しました。水道事業において4県が連携して行う共同発注は、全国でも例がありません。

つきましては、下記日程により、基本合意締結式を開催いたしますので、是非取材いただきますようお願いいたします。

記

1 日 時 令和8年2月12日（木） 午後1時40分から午後2時15分まで

2 場 所 宮城県行政庁舎 4階 庁議室（仙台市青葉区本町3-8-1）

3 出席者 福島県双葉地方水道企業団企業長 松本 幸英（代表）

宮城県美里町長 相澤 清一（副代表）

岩手県遠野市環境整備部長 村上 明洋

岩手県釜石市建設部長 新沼 康民

岩手県二戸市水道事業所長 陣場 弘之

岩手県零石町上下水道課長 小森 健二

岩手県岩手町副町長 吉田 和彦

岩手県金ヶ崎町上下水道課課長補佐 千田 由行

岩手県一戸町長 小野寺 美登

宮城県栗原市長 佐藤 智

山形県天童市長 新関 茂

山形県白鷹町上下水道課長 高橋 浩之

福島県いわき市水道事業管理者 飯尾 仁

福島県白河市水道部長 鈴木 誠之

福島県田村市上下水道局長 赤石沢 達雄

岩手県環境生活部長 中里 裕美

山形県防災くらし安心部長 庄司 雅人

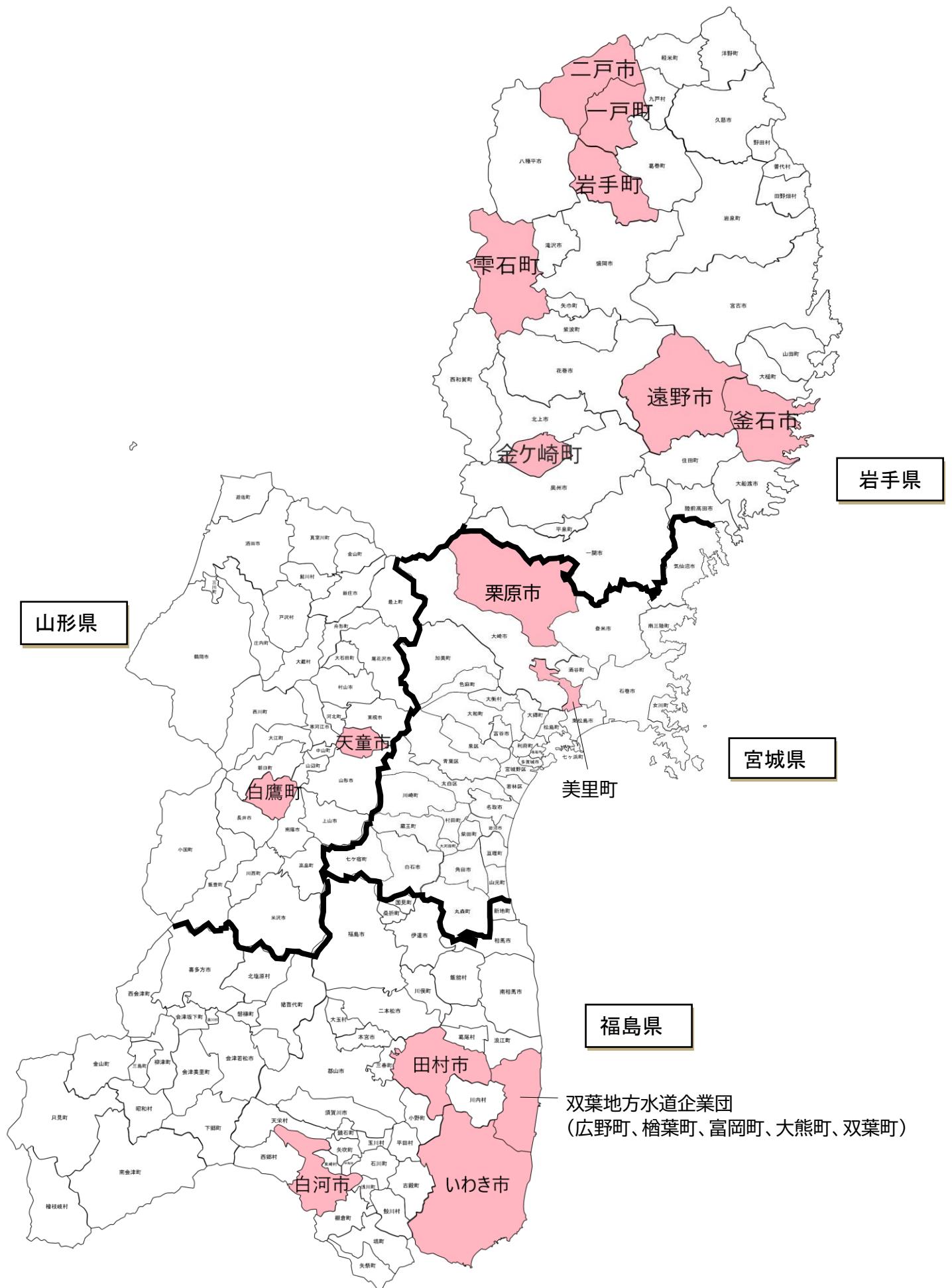
福島県保健福祉部長 菅野 俊彦

宮城県知事 村井 嘉浩

4 内 容 合意内容説明、基本合意書署名、出席者挨拶、写真撮影、記者質疑応答

5 取 材 恐れ入りますが、会場準備の関係で、取材される方は、メール又は電話により令和8年2月10日（火）まで担当者宛て参加者数を事前に連絡願います。

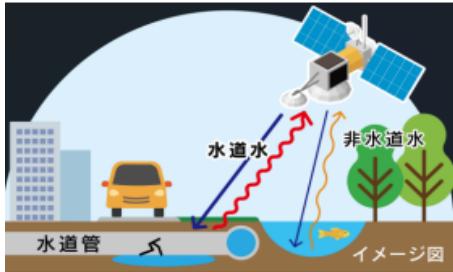
## 【参考】参加事業者の位置図



## 【参考】衛星を用いた水道管路の漏水調査の技術概要

### 衛星画像による解析（令和6年度・7年度共同発注選定技術）

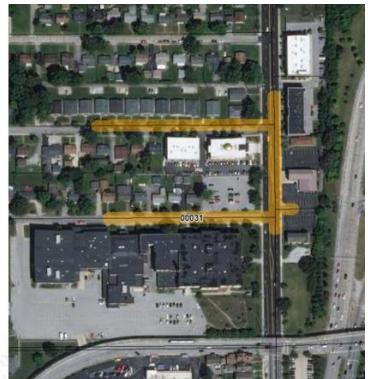
人工衛星で水道管の漏水を  
発見するイメージ



半径 100m の範囲で  
漏水可能性エリア (POI) を特定



管路 GIS データをベースに  
ハイライト



#### 【技術の概要】

- ・人工衛星が取得した画像データを独自アルゴリズムと AI を用いて解析し、漏水箇所を検出する技術。
- ・音聴調査等の全体の効率性・事業性が向上し、漏水発見の効率化と低コスト化を実現、有効率の向上に繋げる。

漏水可能性エリア内の管路を現地調査

### 現地調査（路面音聴調査等）



漏水の音を確認した箇所を開削し、  
漏水を発見→修繕実施



#### 【調査の概要】

- ・音聴棒や電子音聴器で、戸別音聴調査や路面音聴調査によって漏水箇所を探知する。
- ※県内の水道事業体では、予算等の問題もあり、単年度で市町村全域の漏水調査を実施することは難しく、全域の漏水調査を実施するには、複数年を必要としていた。